The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	TA (Teaching Assistant) の声　サイバーメディアフォーラム no.12　CALLシステム
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2011, 12, p. 55-56
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70326
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

学生の様子から見えるTAの役割

奥田 阿子（大阪大学 大学院言語文化研究科 言語文化専攻）

1．はじめに

木曜日の1限目、2限目にある実践英語のTAをさせて頂きました。授業時間中は、小テスト、リスニングの時間、先生の講義など、盛りだくさんの内容になっているため、学生と積極的にコミュニケーションを取る時間はほとんどありませんでした。しかし、TAの席から学生の皆さんの様子を観察していると、英語学習に真剣に取り組む姿や学期間中の気持ちの変化などが見えてきました。ここでは、その様子から感じたTAの役割と所感について述べたいと思います。

2．英語と戦う学生たち

先生が初回の授業で行ったアンケート調査では、クラスにいる全員が自分の英語力は十分でないと感じており、その原因は、単語力や熟語を知らないからと答えた学生が8割以上という結果でした。また、リスニング力の自己評価として簡単な挨拶文が分かる程度と答えた学生が8割だったことからも、英語が得意だと感じている学生は少ないように感じました。この状況を脱却するために、学生は、一学期間を通してListen to meシリーズの教材と語彙力を伸ばす為の教材を並行して学習していました。学習量は、決して少ないとは言えません。小テストの日程も全て決められており、学生は必死になって勉強しているという印象を受けました。

授業では、始めの30分間を小テストの時間とし、スケジュール表に基づき、教材チャプターのテストが行われました。そのため、開始30分間の学生は、まさに戦闘モード。特にリスニングの問題を解く時の表情は、真剣そのものでした。3回繰り返される音声を聞いても答えられない学生は、頭を抱え、落ち込む様子。答えられた学生も、次の問題に備えて問題の先読みを行っている様子が見られました。このように行われた小テストを採点するのがTAの仕事です。つまり、レフリーの役割をTAは担っています。何が間違っていたのか、それは何点の減点に相当するものなのか明確にしておく必要があります。学生は、自分の点数が返却され、点数に疑問を感じると何が間違っていたのか質問にきます。そのため、間違っていた箇所には線を引き、具体的な減点数を書くなど、学生に提示して納得してもらえるように工夫しました。また、TAは、サポーターでもあります。学生が英語と戦いたいというモチベーション維持につながるような声かけが必要であると感じました。

3．変化していく学生たち

4月初め、入学したばかりの学生を見ると、周りと話すこともなく、緊張している様子。小テスト終了後、採点をし合う姿もどこかぎこちない。先生がモニターに移す内容、1つ1つを真剣に見つめる姿を見ていると、こちらまで緊張してくるような雰囲気でした。5月、学校にも慣れ、周りの人と積極的にコミュニケーションをとっているようで、たくさんの笑顔を見られるようになりました。リスニング教材の勉強にも慣れてきたのか、小テストも安定した点数を取れるようになってきた学生が多かったです。6月、4月初旬あった緊張感も少なくなり、欠席や遅刻が目立つ学生も出てきた一方で、TAに話しかけてくれる学生も多くなり、学生とTAの距離も近くなってきました。7月、前期も残すところ1ヶ月になり、もう一度気を引き締めて授業に臨んでいる様子。小テストの結果から、お互いに励まし合う姿も多く見られました。

このような学生の様子と小テストの平均点を照らし合わせてみると、4月は70点ほどの平均点が6月になると60点台に下がり、7月になると75点ほどまで平均点が伸びていました。テスト結果には、様々な要因が考えられると思いますが、その要因の1つ

に、学生の観察から得たような気持ちの変化が影響しているのではないかと思いました。反省として、学生の緊張感が薄れ、テスト結果が下がって来た時は、一人の英語学習者として学生にアドバイスをするなどの対応が出来れば良かったと思います。

4．まとめ

TA として、与えられた仕事をこなすことはもちろんですが、学生たちの様子を観察し、その時の状況に合った言葉をかける、学習の悩みを聞く、アドバイスをすることも非常に大切な役割の一つだと思います。欠席が多い学生に「さようなら、また来週」「来週も小テスト頑張ろう」などと声をかける、小テストでなかなか 100 点を取れずに悔しがっていた学生が 100 点を取れた時は、「おめでとう！」という言葉を添えて返却するなど、TA から学生に働きかけることでモチベーション維持に繋がるのだと言うことを学びました。

最後に、教員を目指す者として、このような機会に恵まれ、貴重な経験が出来たことに心から感謝すると共に、TA の経験を将来の指導に活かしていきたいと思います。